



総合情報センターから学術情報センターへ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2010-08-12 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 福永, 邦雄 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10466/10964">http://hdl.handle.net/10466/10964</a>

## 総合情報センターから学術情報センターへ

情報システム部長 福永 邦雄

新年度には大阪府立大学、大阪女子大学、大阪府立看護大学の3大学を再編統合し、公立大学法人大阪府立大学が発足する。新しい大学は「知の創造拠点の形成、社会を支えリードする人材の育成、知の活用と地域貢献並びに戦略的・弾力的な大学運営」を目標とした大学を目指し、新しい大学においては「総合情報センター」から「学術情報センター」へと名称を変更し、新たな大学における目標を実現するための中核的なセンターとして発足することになります。総合情報センターの年報としての「情報」も今回が最後になりますので、この機会に総合情報センターを振り返るとともに、新たな学術情報センターの目標などを見てみることにしよう。

現在の総合情報センターは、今から12年前の平成5年に旧中央図書館と計算センターを一体化するとともに、大ホールを併せ持ち、図書館機能と計算センター機能を融合した当時としては先進的な試みの施設として発足し、その後関係された方々のご努力により学術情報を扱う学内の拠点として、絶えず教育・研究の国際化、情報化に寄与するとともに、情報化時代における府民の方々の生涯学習や文化的ニーズに応えることにより、地域社会の発展にも寄与してきました。

この間、所蔵図書の実質、電子ジャーナルへの取り組み、また蔵書検索をはじめ情報検索システムなど図書館情報システムを導入して学術情報の充実と情報化へ対応してくるとともに、情報システム部門においてはキャンパスネットワークならびに学外ネットワーク接続の整備・強化を行うとともに、情報処理システムの充実、全学情報教育と情報システム関係の研究を積極的に進め、大学における情報技術の実践の中心的な役割を果たしてきました。

新たな大学における学術情報センターは、これまでの各大学でなされてきた専門図書をはじめとした所蔵図書の整備充実、電子ジャーナルの充実など学術情報を体系的に整備充実することに積極的に取り組み、また古蔵書や貴重図書の整理を行い利用に供することができるようにするなど総合図書館機能を充実することを目標にしています。

また、新しい大学はこれまでと違い「中百舌鳥キャンパス」、「大仙キャンパス」、「羽曳野キャンパス」さらには「大学院難波サテライト教室」の4つのキャンパス・教室から構成されます。このマルチキャンパスの大学に求められる重要な機能の一つは、学術研究・教育さらには大学運営情報の共有あるいは透過的な利用環境の整備でしょう。この対応として、各キャンパス・教室を結ぶネットワークを構築して情報基盤を整備充実するとともに、この基盤システムのもとに教育・研究用システム、教務学生用システムまた大学運営業務システムを統合した情報システムを構築し、一体的に運用するとともに、この情報システムへの窓口としてのポータルサイト、認証システムを充実して新しい大学の「もう一つの顔」としての役割を果たすことが期待されています。

この基盤システムはプラットフォームとしての役割を果たし、学内にあってはキャンパス間におけるアーカイブされた講義の活用とか遠隔会議システム、またセンターが有する学術情報を広く府民とか地域社会に開放するとともに、地域の文化ストックの拠点として学術情報センターを活用するためのシステムとして機能することが期待されているとともに、目標としています。

いつも思うことですが、大学の研究者、学生が図書館とか情報環境の話題になると一人一人の頭の中には理想の図書館像とか情報環境像が描かれていて、その理想像を語るときには思わず力が入るのを目の当たりにします。それだけ、総合情報センター、また新たに発足する学術情報センターへの期待が大きく、また果たすべき役割が大きいことを表しているように思えます。学術情報センターがその期待に応えられることを願って止みません。